

中期目標の達成状況に関する評価結果

北陸先端科学技術大学院大学

平成29年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	

評価結果

《概要》	3
《本文》	5
《判定結果一覧表》	17

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

先端科学技術を追求する大学院大学として、豊かな教育研究環境を活かし、次代の科学技術創造の指導的役割を担う人材や最先端の研究開発を先導する高度な専門技術者を組織的に養成するとともに、知識・情報・マテリアルの3分野を基盤に、新たな領域や特色ある分野において世界レベルの基礎研究と応用研究を行い、今後の知識基盤社会のための新しい科学技術を創造する。併せて、本学の教育研究活動を国際的に情報発信するとともに、外国人教員の採用や留学生の獲得などの取組を一層推進し、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を目指す。

学部を置くことなく、独自のキャンパスと教育研究組織を持つ、我が国で最初の国立大学院大学として創設された本学は、同時に我が国大学改革の先導的モデルとして、「大学院教育の実質化に向けた教育システムの改革」や、「学長のリーダーシップによる大学法人の戦略的な管理運営システムの構築」、「留学生や外国人教員の積極的な受入れによる国際交流の推進」等に努めてきた。これらの取組・成果により、本学は我が国の高等教育において確たる地位・意義を有してきたことを深く認識し、引き続き、新構想大学としての創設以来の使命を受け継ぎつつ、さらに本中期目標期間を「第2の創設」期とするとの意識の下、教育機関としての大学院の実質化や国際的な質保証への取組、様々な知を社会の中で構成できる新たな人材の育成等のあらゆる先進的取組を積極的に実施し、我が国における新しい大学像の構築に資することも視野に入れた、他大学の範たる「パイロットスクール」としての位置づけ・存在意義を維持・発展する。

- 1 先端技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成する。博士前期課程においては、特に、幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に応用できる人材育成の役割を、また、博士後期課程においては、世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、問題の発見と解決のできる研究者・技術者育成の役割を果たす。
- 2 体系的コースワーク、厳格な成績評価による質保証等の先進的大学院教育システムや英語のみによる学位取得、多数の外国人教員・留学生、世界をリードする教育研究機関との大学院国際協働教育プログラム、アクションリサーチやグループワークを中心としたフィールド指向の教育プログラムの開発等、トップレベルの理工系グローバル人材育成体制及び我が国唯一の知識科学グローバル人材育成体制を構築してきた実績を生かし、世界で活躍できる理工系人材及び知識基盤社会のリーダーの育成を推進する。
- 3 知識科学分野での教育研究成果の全学的な展開等により、社会の変化に対応できる柔軟かつ機動的な全学融合的教育研究体制を構築する。
- 4 世界トップレベルの研究実績をもとに先端的な研究を行い、世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると同時に、多様な基礎研究や研究科を超えた連携による新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を積極的に行う。
- 5 産業界での本格的利用・採用に至った産学連携の高い実績を踏まえ、産業界との連携を一層強化し、実社会で活躍する博士人材の育成を促進する。また、知識科学分野、情

報科学分野及びマテリアルサイエンス分野の連携により、産業構造や社会の変革を見据えた研究を統合的に展開し、イノベーションに貢献するとともに、社会と地域の発展に寄与する。

- 6 東京サテライトにおける理論と実践を融合した社会人教育の実績を生かし、更に本学の先端的研究成果を取り入れた教育プログラムを開発し、産業界や社会のイノベーションを担う社会人の再教育を行う。

[個性の伸長に向けた取組]

グローバルに活躍しうるイノベーション創出人材を育成するため、平成 28 年 4 月に既存の 3 研究科を 1 研究科に統合する組織再編を行い、全学融合教育研究体制の下、知識科学的方法論を全学に普及させることを決定し、学生受入に向けて教育プログラムの開発を行った。(関連する中期計画) 計画 1-1-2-6

世界的に最高水準の研究・教育拠点(エクセレント・コア)を形成するため、「エクセレントコア形成構想」を策定し、目的や内容に応じて段階的に認定する仕組みを整備した。併せて、学長裁量経費による研究拠点形成支援事業「先端研究拠点形成支援」において、研究活動の活性化、高度化及び国際化を目指す事業に対して重点的に支援を行った。こうした取組を踏まえ、平成 27 年度に 2 拠点を認定し、他大学にない特色・個性の伸長に取り組んだ。(関連する中期計画) 計画 2-1-1-1

[東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等]

平成 23 年度に、福島第一原子力発電所の事故における環境放射線測定結果の情報提供障害が発生した際には、本学で運用しているミラー・サーバを用いた情報発信機能の代替及び東京都のマスター・サーバの性能改善・増強の方策に関する助言を行い、東京都から感謝状の贈呈を受けた。

平成 26 年度に本学情報科学研究科の教員が、総務省「被災地域情報化推進事業」に参画し、東日本大震災の被災自治体が抱える課題について、ICT を活用した課題解決に関する指導・助言を行うとともに、同事業における 10 の被災自治体での諸課題に関する検討会の座長を務め、自治体が ICT の活用を検討する際の留意点をまとめた手引を発行した。

平成 26 年度に本学マテリアルサイエンス研究科の教員が、被災地域に位置する一関高等専門学校との共同研究及び学生の研究支援及び復興を目的とした福島県の「ふくしま医療福祉機器開発事業費補助金」の支援による福島県内の医療福祉機器企業との共同研究を実施した。

評価結果

《概要》

第2期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、北陸先端科学技術大学院大学の中期目標（大項目、中項目、小項目）の達成状況の概要は、次のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）の判定の分布			
		非常に優れている	良好	おおむね良好	不十分
（Ⅰ） 教育に関する目標	おおむね良好				
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標	おおむね良好			4	
② 教育の実施体制等に関する目標	おおむね良好			4	
③ 学生への支援に関する目標	おおむね良好			2	
（Ⅱ） 研究に関する目標	おおむね良好				
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標	おおむね良好		1	1	
② 研究実施体制等に関する目標	おおむね良好			3	
（Ⅲ） その他の目標	おおむね良好				
① 社会との連携や社会貢献に関する目標	おおむね良好			1	
② 国際化に関する目標	おおむね良好			1	

＜主な特記すべき点＞

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定されている取組

- 将来、世界的に最高水準の研究・教育拠点（エクセレント・コア）となり得る先端研究拠点を段階的に形成するため、エクセレントコア形成構想を策定し、研究ユニット、第Ⅱ種研究施設（研究科教員が兼務して組織する分野融合的な仮想的な研究センター）、第Ⅰ種研究施設（専任教員及び専用スペースを有する研究センター）の順に、段階的に認定する仕組みを整備している。平成 27 年度にシングルナノイノベティブデバイス研究拠点、高性能天然由来マテリアル開発拠点をエクセレントコアに認定の上、支援を行っている。（中期計画 2-1-1-1 【26】）
- エクセレントコアを形成するため、各研究施設のチェック・アンド・レビューを実施し、当該研究施設の存続の可否を判断しているなど、研究の質の向上を図っている。学外有識者の意見を取り入れる仕組みとして、大学等からアカデミックアドバイザーを、産業界からインダストリアルアドバイザーを招へいし、研究活動の改善に資する助言を得ており、産学官連携マッチングイベントへの学生参加等の改善を行っている。（中期計画 2-2-3-1 【34】）

改善を要する点

- 大学院説明会の充実や海外在住者対象推薦入学特別選抜の導入等、多様な人材を受け入れる取組を積極的に行っているものの、博士後期課程の標準修業年限内修了率を高めるための施策については、改善に向けた取組が十分にはなされていない。（中期計画 1-1-1-1 【1】）

＜復旧・復興への貢献・支援活動等に関係した顕著な取組＞

- 平成 23 年度に、福島第一原子力発電所の事故における環境放射線測定結果の情報提供障害が発生した際には、北陸先端科学技術大学院大学で運用しているミラー・サーバを用いた情報発信機能の代替及び東京都のマスター・サーバの性能改善・増強の方策に関する助言を行い、東京都から感謝状の贈呈を受けた。

このほかの取組は、法人の特徴「東日本大震災からの復旧・復興へ向けた取組等」欄にあるとおりである。

《本文》

（Ⅰ） 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育に関する目標」に関する中期目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した4項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された2計画を含む。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○副テーマの実施による社会的実践力の修得

中期目標（小項目）「教育課程に関する基本方針 博士前期課程、博士後期課程それぞれの到達目標を明確にし、その実現に向けた体系的なカリキュラムを編成する。特に、産業界等社会が求める人材像を踏まえつつ、専門の学問以外にも目を向ける重要性を認識させ、幅広く基本的な知識と知の技法を学ばせるための科目を充実する。」について、学生が複眼的に研究に取り組むことができるように、専攻する分野における主テーマに加えて副テーマを設けており、社会的実践力を修得させるため、副テーマを国内外の研究機関で実施することを推奨している。これに加え、研究留学助成制度の創設やインターンシップ実施体制の整備等により、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における海外機関への研究指導委託件数は275件、インターンシップ実施件数は123件となっている。（中期計画1-1-2-4【8】）

○先端領域基礎教育院科目の開設

中期目標（小項目）「教育課程に関する基本方針 博士前期課程、博士後期課程それぞれの到達目標を明確にし、その実現に向けた体系的なカリキュラムを編成する。特に、産業界等社会が求める人材像を踏まえつつ、専門の学問以外にも目を向ける重要性を認識させ、幅広く基本的な知識と知の技法を学ばせるための科目を充実する。」について、従前から開設してきた共通科目の役割や履修状況を踏まえ、先端領域のための教養教育として必要とされる科目を開発し実施するため、平成 23 年度に先端領域基礎教育院を設置し、平成 24 年度から先端領域基礎教育院科目として教養科目、コミュニケーション科目及びキャリア科目の 3 科目群として再編している。これにより、履修者数は、平成 22 年度共通科目の 376 名から平成 27 年度先端領域基礎教育院科目の 546 名へ増加している。

（中期計画 1-1-2-5 【9】）

（特色ある点）

○人間力・創出力強化プログラムの開発

中期目標（小項目）「教育課程に関する基本方針 博士前期課程、博士後期課程それぞれの到達目標を明確にし、その実現に向けた体系的なカリキュラムを編成する。特に、産業界等社会が求める人材像を踏まえつつ、専門の学問以外にも目を向ける重要性を認識させ、幅広く基本的な知識と知の技法を学ばせるための科目を充実する。」について、グローバルに活躍し得るイノベーション創出人材を育成するため、平成 28 年度に既存 3 研究科を 1 研究科に統合し、全学融合教育研究体制の下、知識科学的方法論を全学に普及させるための制度設計を行っている。学生受入に向けて、人間力・創出力強化プログラムを開発しており、平成 26 年度にデザイン思考教育の方法を取り入れた「イノベーションデザイン方法論」科目を新設し、平成 27 年度に「人間力・創出力イノベーション論」科目を創設して全研究科を対象に開講するなど、全学的な普及に向けた取組を実施している。

（中期計画 1-1-2-6 【9-2】、1-1-2-7 【9-3】）

（改善を要する点）

○博士後期課程学生の標準修業年限内修了率

中期目標（小項目）「アドミッション・ポリシーに関する基本方針 多様な背景を持った学生に大学院レベルの学習機会を与えるために、積極的な情報発信と多様な入学者選抜の実施により、既往の専攻や職歴等に関係なく、十分な基礎学力を持ち、新しい学問に挑戦する基本的な知的能力・科学的知識と、何よりも明確な目的意識、断固とした意欲を持った優れた人材による定員充足に取り組みつつ、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を実現する。」のうち、中期計画

「アドミッション・ポリシーに関する具体的方策」「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を実現する上で、優秀な学生による定員充足が不可欠であることから、これを本中期目標期間中に解決すべき最重要課題の一つとして認識し、情勢の変化に応じた対応も念頭に置きながら、本学のアドミッション・ポリシーを堅持しつつ、多様な方策を積極的に講ずることにより、国内外から有能な人材を確保し、定員充足に確実に取り組む。学生から社会人まで、出身学部・専攻を問わず広く門戸を開放し、多様な人材を受け入れるという本学のアドミッション・ポリシーを明確化・具体化するため、先端的な大学院教育に耐えうる基礎学力を確認しつつ、引き続き面接を主体とした入学者選抜を中心に位置づけ、意欲あふれる学生を広く受け入れる。」について、大学院説明会の充実や海外在住者対象推薦入学特別選抜の導入等、多様な人材を受け入れる取組を積極的に行っているものの、博士後期課程の標準修業年限内修了率を高めるための施策については、改善に向けた取組が十分にはなされていない。（中期計画 1-1-1-1【1】）

（２）教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（４項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○最先端の教育研究活動を支援する情報環境の整備

中期目標（小項目）「教育環境の整備に関する基本方針 学生に対する教育は各研究科が主体となって実施するものである一方、全学的観点からの組織的・体系的な提供が不可欠であることから、附属施設・学内共同教育研究施設（センター）においても、それぞれの特色を活かした教育・学習支援活動を行う。」について、ビッグデータ処理等の最先端の教育研究活動を支援するため、世界最先端のスーパーコンピュータ CRAy XC30 を平成 24 年度に導入するなど、情報社会基盤研究センターにおいて高水準の情報環境を整備している。当該センターが整備した計算環境は、平成 25 年度の国際会議において大規模データ処理性能世界ランキングに位置付けられるなど、世界的に高水準となっている。また、講義やゼミでも活用できるタブレット型端末の学生への提供を決定するなど、学生が日常的に情報環境を活用できる環境を整備している。（中期計画 1-2-2-2【16】）

(特色ある点)

○他大学との連携による大学院の設置

中期目標（小項目）「その他教育実施体制等に関する基本方針 本学が有する教育資源の有効活用を進める観点から、各大学との間における資源の効果的・効率的な連携・共同化に取り組む。」について、新興分野・分野融合型研究を基にした金沢大学との共同大学院を平成 30 年度に設置することを決定しており、他大学との連携による大学院づくりを進めている。（中期計画 1-2-4-2 【21】）

(3) 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○給付型奨学金と雇用型支援制度の改善

中期目標（小項目）「学生の学習支援に関する基本方針 学生が学習と研究に専念し、高い成果を上げることができるよう、学生の立場に立った経済的支援、継続的なキャリア形成支援を推し進める。」について、学生が学修・研究活動に専念できるように、大学独自の給付奨学金と雇用型支援制度の見直し・充実を図り、平成 27 年度はこれらの経済的支援を受けている学生の割合は、平成 21 年度に比べ 4.8 ポイント増となる 52.9%に達している。学生寄宿舍への入居希望者の増加に伴い、平成 22 年度に学生の宿泊施設 JAIST HOUSE（計 30 室）を整備したほか、学生に安価な住環境を安定的に提供するため、民間アパートへの斡旋も行っている。（中期計画 1-3-1-2 【23】）

(特色ある点)

○学生指導・支援体制の充実

中期目標（小項目）「学生の生活支援に関する基本方針 心身とも健康な生活は、学習・研究を進める上で基礎となるものである。特に立地条件も踏まえ、学生の抱える問題について早期発見・対応に取り組むとともに、安定したキャンパスライフを送るための施設・設備の整備を行う。」について、学生指導に関する全学的な委員会として、平成 24 年度に学生指導・メンタルヘルス委員会を設置して、学生指導・支援体制の充実を図っている。支援を必要とする学生への対応マニュアルの作成や、臨床心理士による全学生を対象とする面談を行っている。

(中期計画 1-3-2-1 【24】)

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「良好」と判定した1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

<特記すべき点>

(優れた点)

○エクセレント・コアの形成プロセスの確立

中期目標(小項目)「目指すべき研究の水準に関する基本方針 この分野の研究であれば JAIST である、との理解・認識が国内外の研究者の間で共有されるよう、重点的に取り組むべき研究分野・課題を明確化するとともに、当該分野等に対する学内資源の傾斜配分を行い、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」の形成を目指す。」について、将来、世界的に最高水準の研究・教育拠点(エクセレント・コア)となり得る先端研究拠点を段階的に形成するため、エクセレントコア形成構想を策定し、研究ユニット、第Ⅱ種研究施設(研究科教員が兼務して組織する分野融合的な仮想的な研究センター)、第Ⅰ種研究施設(専任教員及び専用スペースを有する研究センター)の順に、段階的に認定する仕組みを整備している。平成27年度にシングルナノイノベーションデバイス研究拠点、高性能天然由来マテリアル開発拠点をエクセレントコアに認定の上、支援を行っている。

(中期計画 2-1-1-1 【26】)

○情報科学研究科・情報社会基盤研究センターにおける企業との共同研究の推進

情報科学研究科・情報社会基盤研究センターにおいて、企業との共同研究にて開発し、特許を取得した音声プライバシー保護装置が平成 23 年 9 月から販売され、主に調剤薬局向けに累計 1,000 台以上出荷されるなどしている。

(現況分析結果)

○情報科学研究科・情報社会基盤研究センターにおける国際的研究の推進

情報科学研究科・情報社会基盤研究センターにおいて、ワイヤレス協調通信技術に関する研究で、EU（欧州連合）の第 7 次研究・技術開発枠組み計画（FP 7）におけるカテゴリ：ICT-2013.1.1 Future Networks Objective において、大学の技術に基づくプロジェクトが採択されているほか、欧州 COST IC1004 の正式メンバーとして承認されている。（現況分析結果）

(特色ある点)

○研究成果の社会還元への推進

中期目標（小項目）「成果の社会への還元に関する基本方針 大学は教育研究の「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する（学校教育法第 83 条第 2 項）」存在であるとの認識の下、研究成果を幅広く知ってもらうための積極的な情報提供を行うとともに、産業界のみならず公的機関の活動にも積極的に参画し、社会を構成する一員としての役割を果たす。」について、研究成果をより有効に社会へ還元するため、有償譲渡を中心とする技術移転を推進し、第 2 期中期目標期間に計 33 件実施し、計約 2,520 万円の収入を得ている。

(中期計画 2-1-2-3 【29】)

(2) 研究実施体制等に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。なお、「おおむね良好」と判定した3項目のうち1項目は「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に認定された1計画を含む。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

○学長裁量人員枠の拡大による重点的研究プロジェクトの推進

中期目標(小項目)「研究者等の配置に関する基本方針 本学が「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を目指す上では、先端科学技術分野に係る学術研究の進展等に適切かつ柔軟に対応した編成の下に、優れた研究者が配置されていることが不可欠であることから、大学として取り組むべき研究分野についての検証を常に行い、当該分野への適切な研究者の機動的な配置を進める。」について、全学的な見地から一定期間教員を増強配置する学長裁量人員枠を26名分まで増員し、重点的に推進する研究プロジェクト等に配置している。配置した教員の実績評価の結果を、時限が到来したセンター存続の可否を判断する際の参考として活用している。(中期計画2-2-1-2【31】)

○設備整備マスタープランの見直しによる共同利用環境の整備

中期目標(小項目)「研究環境の整備に関する基本方針 刻々と新たな展開がみられる先端科学技術分野において、世界的水準の成果を挙げるべく研究活動が効果的に進められるよう、大学として各研究活動の状況を的確に把握し、その内容に応じて支援内容を決定するとともに、研究活動の効率化に取り組む上からも、学内設備の共同利用を進める。」について、大型あるいは共通性の高い研究設備の効率的な整備を図るため、設備整備マスタープランを見直し、大型設備等の整備計画を更新しており、平成24年度に文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム事業の分子・物質合成プラットフォームに採択されたことを踏まえ、大学所有の設備を学外機関へ開放し、共同利用環境を整備している。

(中期計画2-2-2-2【33】)

○学外有識者の助言を踏まえた研究活動の改善

中期目標（小項目）「研究の質の向上システムに関する基本方針 「世界的に最高水準の研究・教育拠点」の形成を実現するためには、研究の質を不断に向上させる必要があるが、その判定には専門的な知見を必要とすることを踏まえ、学外有識者を積極的に活用するとともに、新たな研究シーズの開発・育成に取り組み、先端科学技術分野の研究を推進する。」について、エクセレントコアを形成するため、各研究施設のチェック・アンド・レビューを実施し、当該研究施設の存続の可否を判断しているなど、研究の質の向上を図っている。学外有識者の意見を取り入れる仕組みとして、大学等からアカデミックアドバイザーを、産業界からインダストリアルアドバイザーを招へいし、研究活動の改善に資する助言を得ており、産学官連携マッチングイベントへの学生参加等の改善を行っている。（中期計画 2-2-3-1 【34】）

（特色ある点）

○全学融合教育研究体制の構築

中期目標（小項目）「研究者等の配置に関する基本方針 本学が「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を目指す上では、先端科学技術分野に係る学術研究の進展等に適切かつ柔軟に対応した編成の下に、優れた研究者が配置されていることが不可欠であることから、大学として取り組むべき研究分野についての検証を常に行い、当該分野への適切な研究者の機動的な配置を進める。」について、人事計画委員会における研究科将来計画の検討や、平成 24 年度から平成 25 年度に整理したミッション再定義、平成 26 年度に実施した研究科別の自己点検・評価、社会的なニーズ、学術の動向等を踏まえ、平成 28 年度から既設の 3 研究科から先端科学技術研究科 1 研究科に統合する全学融合教育研究体制へ移行することを決定し、改組に向けた取組を進めている。（中期計画 2-2-1-1 【30】）

(Ⅲ) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「その他の目標」に関する中期目標(2項目)のすべてが「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

○学内施設の機能強化

中期目標(小項目)「大学院大学にとっての地域、社会は事柄に応じて多層的であることに留意しつつ、それぞれの対象に相応しい連携関係を構築していく。地元市町村、石川県、北陸地域、全国、さらには世界、その全てが本学が対象とする地域であり、社会であるとの認識に立って、学内施設の機能強化に取り組みつつ、積極的に地域の発展に貢献していく。」について、附属図書館を地域に開かれた図書館として24時間365日地域住民等に開放している。貴重図書や郷土の芸術家による美術品について、JAIST Festivalにて特別展示をしているほか、ウェブサイト上での公開を進めている。(中期計画3-1-1-2【37】)

（特色ある点）

○北陸地域全体の活性化に向けた産学官連携事業の実施

中期目標（小項目）「大学院大学にとっての地域、社会は事柄に応じて多層的であることに留意しつつ、それぞれの対象に相応しい連携関係を構築していく。地元市町村、石川県、北陸地域、全国、さらには世界、その全てが本学が対象とする地域であり、社会であるとの認識に立って、学内施設の機能強化に取り組みつつ、積極的に地域の発展に貢献していく。」について、研究成果の社会還元及び北陸地域全体の活性化のため、平成 26 年度から産学官連携総合推進センター主催による産学官連携マッチングイベント Matching HUB Kanazawa を実施している。（中期計画 3-1-1-3 【38】）

（２）国際化に関する目標

【評価結果】中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）「国際化に関する目標」の下に定められている具体的な目標（１項目）が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○海外大学との国際交流の推進

中期目標（小項目）「外国人留学生受入れの増や、教育研究成果の海外発信等、国際化の推進が求められる我が国の大学の中で、主導的役割を果たすべく、入国前から帰国後に至るまで一貫した取組を体系的に実施し、全国トップレベルの外国人留学生比率を達成するとともに、博士前期・後期課程を通じた英語のみによる課程修了や日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上等を進める。」について、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン（英国）、デリー大学（インド）等と学術交流協定を締結し、学生の教育を大学間で連携して行う協働教育プログラムを実施し、第２期中期目標期間に全 14 プログラムの累計で 190 名の留学生を受け入れている。デリー大学からは当該プログラムにて 50 名の学生を受け入れており、デリー大学との大学間交流を足掛かりにインドの他大学との交流に発展させ、平成 27 年度までにデリー大学を含む 5 校と学術交流協定を締結している。こうした取組を通じて海外の大学との連携協力を組織的に進めてきた結果、平成 26 年度の文部科学省の大学の世界展開力強化事業にインド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成プログラムが採択され、インドの大学との交流活動を推進している。（中期計画 3-2-1-1 【40】）

○留学生確保に向けた取組の実施

中期目標（小項目）「外国人留学生受入れの増や、教育研究成果の海外発信等、国際化の推進が求められる我が国の大学の中で、主導的役割を果たすべく、入国前から帰国後に至るまで一貫した取組を体系的に実施し、全国トップレベルの外国人留学生比率を達成するとともに、博士前期・後期課程を通じた英語のみによる課程修了や日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上等を進める。」について、渡日前に入学を許可する海外在住者対象推薦入学特別選抜の導入、英語のみで修了可能なカリキュラムの編成等、留学生を確保するための取組を進めた結果、平成 27 年度における留学生比率は中期計画に掲げた 30%を上回る 33.4%になっている。（中期計画 3-2-1-2【41】）

《判定結果一覧表》

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(I) 教育に関する目標		おおむね良好	
① 教育内容及び教育の成果等に関する目標		おおむね良好	
アドミッション・ポリシーに関する基本方針 多様な背景を持った学生に大学院レベルの学習機会を与えるために、積極的な情報発信と多様な入学者選抜の実施により、既往の専攻や職歴等に関係なく、十分な基礎学力を持ち、新しい学問に挑戦する基本的な知的能力・科学的知識と、何よりも明確な目的意識、断固とした意欲を持った優れた人材による定員充足に取り組むつつ、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を実現する。		おおむね良好	
1-1-1-1【1】	アドミッション・ポリシーに関する具体的方策 「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を実現する上で、優秀な学生による定員充足が不可欠であることから、これを本中期目標期間中に解決すべき最重要課題の一つとして認識し、情勢の変化に応じた対応も念頭に置きながら、本学のアドミッション・ポリシーを堅持しつつ、多様な方策を積極的に講ずることにより、国内外から有能な人材を確保し、定員充足に確実に取り組む。 学生から社会人まで、出身学部・専攻を問わず広く門戸を開放し、多様な人材を受け入れるという本学のアドミッション・ポリシーを明確化・具体化するため、先端的な大学院教育に耐えうる基礎学力を確認しつつ、引き続き面接を主体とした入学者選抜を中心に位置づけ、意欲あふれる学生を広く受け入れる。	不十分	改善を要する点
1-1-1-2【2】	大学院説明会、大学院進学セミナー、体験入学（学部生等を対象に大学院レベルの講義や本学での学生生活を実体験させる）等のイベントを開催し、本学の先進的な教育研究活動を周知する。イベント開催に際して、印刷物、ホームページ、新聞、雑誌等、多様な広告媒体の中から、伝達対象毎に適切な媒体を選択し、アドミッション・ポリシーを明示した情報発信を行う。 また、一般入学者選抜だけでなく、推薦入学協定校を中心とした推薦入学者選抜により入学者の増加を目指す。このため、高専、大学などと推薦入学協定の締結を推進するとともに、協定校とはインターンシップの受入れ、協定校への特別講義の講師派遣等により、その関係を強化する。	良好	
1-1-1-3【3】	世界最高水準の研究大学院を目指して、コアグループを形成するため、デュアル大学院制度の活用、学術交流協定締結機関をはじめとする海外の教育機関の優秀な学生の発掘と給付奨学金やTA・RA制度等の充実により、国内外からの優秀な入学者の増加を目指す。このため、海外から本学に容易に出願・受験できるように、インターネット入試（IAI: Interactive Admission over the Internet）の改善を含め、多様な選抜方法の開発・改良を行う。 また、サマースクール、シンポジウムなどの各種イベントを通じ、他大学院生に対して本学の先進的な教育研究活動を周知することにより、広く国内外から学生を受け入れ、学生構成の多様化を進める。 さらに、前期・後期を連携させた5年一貫教育プログラム（5Dプログラム）のキャリア志向教育を徹底し、学内進学者の増加を目指す。	おおむね良好	

(注) 計画番号の前に○印がある中期計画は、戦略性が高く意欲的な目標・計画を示す。

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	1-1-1-4 【4】	社会人向けの多様な教育プログラムを東京サテライト等を拠点に提供するとともに、産業界の需要、社会人の需要を考慮しながら、専攻分野と教育課程の整備・充実を行い、入学者の増加を目指す。	おおむね良好	
	教育課程に関する基本方針 博士前期課程、博士後期課程それぞれの到達目標を明確にし、その実現に向けた体系的なカリキュラムを編成する。特に、産業界等社会が求める人材像を踏まえつつ、専門の学問以外にも目を向ける重要性を認識させ、幅広く基本的な知識と知の技法を学ばせるための科目を充実する。		おおむね良好	
○	1-1-2-1 【5】	教育課程に関する具体的方策 多様な背景をもって入学してくる学生に対して、博士前期課程、博士後期課程それぞれの到達目標を明示し、その達成に向け、従来から実施している週2回の講義とオフィス・アワーによる個別指導を基本としたクォーター制（4学期制）を堅持するとともに、達成度を定期的に点検し、結果を公表の上、カリキュラム改革に生かす。これらを通じて、到達目標の具体化を逐次進める。	おおむね良好	
	1-1-2-2 【6】	何を教えたいのかではなく、何ができるようになってほしいのかというアウトカムを重視した教育を実施するため、外部の様々な層との間に構築したネットワークを通じ産業界等社会が修了生に求める事項を把握し、それを養成するためのカリキュラム編成を柔軟に行い、結果を公表する。	おおむね良好	
	1-1-2-3 【7】	複数指導体制のもと、プロポーザルから学位論文作成までのプロセスにおいてきめ細かな指導を実施するとともに、質疑による厳格な論文審査を行う。また、学習効果を高めるため、学習ポートフォリオを導入し、学生一人ひとりに応じた教育を実施する。	おおむね良好	
	1-1-2-4 【8】	博士前期課程、博士後期課程ともに、専攻する分野における主テーマ研究に加え、他の分野における副テーマ研究を行い、複眼的に研究活動に取り組むことができるよう指導する。また、学生のキャリアタイプに応じて、社会的実践力を習得するため、企業経験や国内外の研究機関での研究活動を積極的に奨励する。	良好	優れた点
	1-1-2-5 【9】	文系理系の枠を超え、広く人間と社会の諸問題について深く学び、幅広い知識を身に付ける機会を設けるためにすべての研究科で設定している「共通科目」の充実に向け、履修状況も踏まえた定期的な点検・見直しを行い、内容の改訂・科目の改廃を実施する。	良好	優れた点
	1-1-2-6 【9-2】	グローバルに活躍しイノベーションを創出する知的にたくましい人材の育成に向け、未来ニーズの顕在化に挑戦する知識科学的イノベーションデザイン教育をはじめとした知識科学分野の教育研究成果を全学的に展開するため、平成28年度に3研究科を1研究科に統合するための制度設計を行い、社会の変化に対応できる柔軟かつ機動的な全学融合的教育研究体制を構築する。	良好	特色ある点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
○	1-1-2-7【9-3】	知識科学分野の方法論を全学展開し、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力の強化を行う「人間力強化プログラム」及び世界や社会の課題解決を見据えた新領域開拓やイノベーション創出を目指す「創出力強化プログラム」による教育を行うためのカリキュラム開発や評価システム開発等に取り組む。	おおむね 良好	特色ある点
教育方法に関する基本方針 教育は、大学が組織として社会に責任を負う事業であるという認識に立って、教育活動のあらゆる面に組織としての責任ある実行体制を整備する。特に、グローバルな大学として世界で通用する人材の輩出を目指す上から、学生が一定水準以上の英語能力を修得するよう組織的な取組を進める。			おおむね 良好	
	1-1-3-1【10】	教育方法に関する具体的方策 課程ごとに修了時における英語能力（英語による報告書、論文の作成、口頭発表、討議等のコミュニケーション能力）の基準を設定するとともに、その達成状況を定期的に検証する。 このため、英語コースの充実に取り組むとともに、現在、博士後期課程では講義や研究指導等すべての教育を英語で実施しているが、これを社会人向けコースを除き博士前期課程でも英語のみで修了できるようにする。	おおむね 良好	
	1-1-3-2【11】	講義アーカイブシステム及び遠隔コラボレーションシステムによる学習支援を充実し、学生の学習機会を増加させる。また、学生の学習目的に応じた電子教材モデルを開発し、実践を推進する。	おおむね 良好	
成績評価に関する基本方針 成績評価は、学生にとって学習の成果を問う重要なものであると同時に、教員にとっても授業の実施状況を総括する重要なものである。さらに、成績評価の公正性、公平性は教育の場における学生と教員の信頼関係維持の基本であり、個別の授業科目における成績評価の基準・方法についてはシラバスで明示し、これを守ることが大切である。教員間での成績評価の極端な不均衡を防ぐために、成績評価の理念・方法についての共通の理解を深めるとともに、成績評価の実態の公表を進める。			おおむね 良好	
	1-1-4-1【12】	成績評価に関する具体的方策 送り出す学生の質を保証する観点から、学生に対してはシラバスにおいて成績評価の方針を具体的に記載する一方、教員はその妥当性を担保するために、成績評価の実態を教員の間で共有・検討した上で、共通の基準・客観的な判定方法等について、具体的な改善を行う。その際、学生による授業評価の結果等も公表しつつ、積極的に活用する。	おおむね 良好	
	1-1-4-2【13】	産業界等社会が求める修士・博士としての達成レベル・内容を定期的に把握するとともに、今後の学術の進展・社会の動向をも勘案し、各研究科ごとに修了時の達成レベルを明確化し、これを公表する。	おおむね 良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
② 教育の実施体制等に関する目標			おおむね良好	
教職員の配置に関する基本方針 教育の理念・目標の実現、到達すべき教育目標の達成を確保するためのカリキュラムを設定するとともに、それを効率的・効果的に実施するために、各教員の職務内容にも留意しつつ、十分な指導能力を有する教員を適切に配置する。			おおむね良好	
1-2-1-1【14】	教職員の配置に関する具体的方策 学術の動向や産業界等社会の要請を定期的に把握し、学生の要望も踏まえ、学生に身につけさせるべき内容を明確にしたカリキュラムの作成に向け、既存カリキュラムを柔軟に見直した上で、当該カリキュラム・教育内容を教えるに相応しい教員の確保・配置を行う。このため、教員採用時において候補者の研究歴に加え、教育歴・指導力も同様に重視するとともに、国際的視点も踏まえ、教育を担当する教員の適切な配置を行う。		おおむね良好	
教育環境の整備に関する基本方針 学生に対する教育は各研究科が主体となって実施するものである一方、全学的観点からの組織的・体系的な提供が不可欠であることから、附属施設・学内共同教育研究施設（センター）においても、それぞれの特色を活かした教育・学習支援活動を行う。			おおむね良好	
1-2-2-1【15】	教育環境の整備に関する具体的方策 「24時間、365日キャンパス」を標榜している本学において、附属図書館も「いつでも、必要なときに、必要な図書・学術雑誌等にアクセスできる」図書館として、教員や学生の独創的な研究あるいは幅広い知識の習得を支えるべく基礎から最先端に至るまでの図書・資料の収集及び情報を発信する。また、利用者の「知的好奇心を育む図書館」を目指し、全国の大学図書館・公立図書館との相互利用を進め、最先端科学の教育・研究・学習の支援体制を確立する。		おおむね良好	
1-2-2-2【16】	世界最高水準の情報環境を提供し、教員の教育研究活動や学生の学習活動に資するため、情報社会基盤研究センターを中心に、等質かつ高レベルの情報サービスを展開する基盤の整備を進めるとともに、新技術の導入及び研究開発により、高性能計算環境の整備を進める。		良好	優れた点
教育の質の改善のためのシステムに関する基本方針 教育は学生と教員相互の緊張関係の中で実施されるものであり、また、常に内容が点検され、それに基づく必要な改善が施されることによりその価値・質が保たれるものである。従って、提供者である教員による組織的な改善はもとより、受益者である学生の意向も踏まえた評価・見直しを不断に行う。また、これらについては国内外における動向も視野に入れ、所要の措置を講ずる。			おおむね良好	
1-2-3-1【17】	教育の質の改善のためのシステムに関する具体的方策 学生による授業評価及び研究室内教育評価を実施し、その結果を分析し、教育改善にフィードバックする。併せて修了生及び就職先に対する定期的な調査を実施し、その結果を教育の改善・充実に活かすとともに、改善状況について定期的に検証を行う。		おおむね良好	

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	1-2-3-2【18】	講演や、教員相互の随時、自由な講義参観・検討等に基づく、全学的なFD活動と各研究科単位のFD活動の実質化を推進するとともに、他大学との連携を含め、組織的な教育改善に取り組む。	良好	
	1-2-3-3【19】	大学院教育改革を先導する立場にあることを踏まえ、OECDで進められているAHELOの動向等を注視しつつ、大学院修了時の学習成果測定に向けた国際的な調査への参加に取り組むべく、情報収集をはじめとする諸準備を行う。	おおむね良好	
	その他教育実施体制等に関する基本方針 本学が有する教育資源の有効活用を進める観点から、各大学との間における資源の効果的・効率的な連携・共同化に取り組む。		おおむね良好	
	1-2-4-1【20】	その他教育実施体制等に関する具体的方策 大学院教育の実質化に向けて創設以来実施してきた取組や実績を踏まえ、特に大学院教育において求められる教育内容・方法の明確化を行うとともに、それらの標準的なカリキュラムや教材・教科書の共同開発等を行い、その成果を全国の大学に普及するための組織を設置する。	おおむね良好	
	1-2-4-2【21】	学内カリキュラムとの整合・連携を踏まえつつ、学生がより幅広い分野の学習を選択できるよう、他大学等との連携による単位互換や研究指導委託を積極的に進める。また、共同教育課程の編成に向けた取組を進め、順次制度化を進める。	おおむね良好	特色ある点
	③ 学生への支援に関する目標		おおむね良好	
	学生の学習支援に関する基本方針 学生が学習と研究に専念し、高い成果を上げることができるよう、学生の立場に立った経済的支援、継続的なキャリア形成支援を推し進める。		おおむね良好	
	1-3-1-1【22】	学生の学習支援に関する具体的方策 キャリア支援センターが中心となって、従来の出口における就職支援に留まらず、企業及び修了者に対して学修内容と就職後の業務との相関や学修内容の満足度、学生時代に修学しておくことが望ましいと考える教育内容等について意見聴取を行い、その分析結果をキャリア形成支援及びカリキュラム改革に活かす仕組みを構築する。このほか、企業インターンシップ制度やキャリア・アドバイザー制度を活用したキャリア形成支援に積極的に取り組む。	おおむね良好	
	1-3-1-2【23】	各種奨学金や支援策の情報を積極的に収集し周知するとともに、寄附の活用等により独自の奨学金の拡充を含め、TA・RA制度や学生寄宿舎等の整備により、経済的支援を行う学生の増に取り組むとともに、優秀な学生に対する全国トップクラスの手厚い支援を実施する。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	学生の生活支援に関する基本方針 心身とも健康な生活は、学習・研究を進める上で基礎となるものである。特に立地条件も踏まえ、学生の抱える問題について早期発見・対応に取り組むとともに、安定したキャンパスライフを送るための施設・設備の整備を行う。		おおむね良好	
	1-3-2-1【24】	学生の生活支援に関する具体的方策 保健管理センターで実施しているカウンセリングにおいて、専門的立場から問題があると思われる事例については早期に指導教員と連絡をとるなどの適切な対応を講じ、学生生活のケアを行う。また、学生による「なんでも相談室」について個人情報保護の観点に留意しつつ、相談内容等について集計をとり、これを全学的委員会にフィードバックし、学生指導に反映する仕組みを構築する。	良好	特色ある点
	1-3-2-2【25】	本学の立地条件の下、学生が心身のゆとりをもち、学習と研究に一層専念できる環境を整えるため、地元自治体との連携の上に、屋内運動施設等を設置するとともに、学生の意向を踏まえつつ、リフレッシュ設備・機器や学生生活支援のための各種サービスの充実に計画的に取り組む。	おおむね良好	
(Ⅱ) 研究に関する目標			おおむね良好	
① 研究水準及び研究の成果等に関する目標			おおむね良好	
	目指すべき研究の水準に関する基本方針 この分野の研究であればJAISTである、との理解・認識が国内外の研究者の間で共有されるよう、重点的に取り組むべき研究分野・課題を明確化するとともに、当該分野等に対する学内資源の傾斜配分を行い、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」の形成を目指す。		良好	
○	2-1-1-1【26】	目指すべき研究の水準に関する具体的方策 本学の持つ様々な研究・教育資源の実績や発展性等に基づき、本学としての「強み・弱み」を明らかにし、学内資源の傾斜配分を行うシステムを構築するとともに、外国人研究者の招聘やポスドク等の若手研究者の組織的な充実・積極的な活用を行い、新領域の創生を含め、本学の「エクセレント・コア」形成を推進する。これらにより、大学の基本要件である多様性の確保にも配慮しつつ、知識基盤社会や安心・安全・豊かな情報社会の構築技術と理論、エネルギー・環境・医療・情報デバイスとマテリアルの研究等に関して、「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を確立するとともに、他大学にない特色・個性の伸長に取り組む。	良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	成果の社会への還元に関する基本方針 大学は教育研究の「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する（学校教育法第83条第2項）」存在であるとの認識の下、研究成果を幅広く知ってもらうための積極的な情報提供を行うとともに、産業界のみならず公的機関の活動にも積極的に参画し、社会を構成する一員としての役割を果たす。		おおむね 良好	
2-1-2-1【27】	成果の社会への還元に関する具体的方策 大学における研究成果は、一大学のものでなく、人類の共通財産であるとの認識に立ち、様々な媒体を利用し、その積極的な公表を行う。 研究成果を社会へ還元し、本学の知名度を向上させるため、学術雑誌等への発表やシンポジウム・研究会の主催のほか、大学の理念や活動を研究・教育・社会連携・国際化の視点でアピールすることを目的とした情報発信を行う。		おおむね 良好	
2-1-2-2【28】	産学官連携による共同研究、受託研究、技術サービス等を積極的に進め、社会に貢献するとともに、企業との連携を推進し、地域活性化にも貢献する。また、国や地方公共団体等の審議会・委員会や学協会の委員への就任も重要な社会貢献活動と位置付け、積極的に参画する。		おおむね 良好	
2-1-2-3【29】	先端科学技術研究調査センターにおいて、研究の過程で生じる発明等の知的財産を速やかに社会に還元する活動を推進する。具体的には、先行技術調査等の特許調査を厳密に実施し、その結果を踏まえて活用性の高い特許の単独出願を重点的に行う。		良好	特色ある点
② 研究実施体制等に関する目標			おおむね 良好	
研究者等の配置に関する基本方針 本学が「世界的に最高水準の研究・教育拠点」を目指す上では、先端科学技術分野に係る学術研究の進展等に適切かつ柔軟に対応した編成の下に、優れた研究者が配置されていることが不可欠であることから、大学として取り組むべき研究分野についての検証を常に行い、当該分野への適切な研究者の機動的な配置を進める。			おおむね 良好	
2-2-1-1【30】	研究者等の配置に関する具体的方策 研究分野別の実績・発展性等についての客観的判定結果、及び社会におけるニーズや科学技術の発展状況・科学技術基本計画等を踏まえ、基礎と応用に留意しつつ、中期目標期間中に組織の改組・改編を行うことを念頭に、教員の採用に際しては新たなテーマを優先的に扱うなど、社会の発展を支える「先端科学技術」を指向する大学に相応しい取組を積極的に行う。		おおむね 良好	特色ある点
2-2-1-2【31】	大学として重点的に推進する研究プロジェクトに対して、学長の判断で教員を一定期間、戦略的に増強配置できるよう、学長裁量による一定数の教員枠の増を実現する一方、制度の実質化・効率化のため、配置された教員の雇用期間における実績を評価し、その結果に応じ、配置を柔軟に調整する仕組みを構築する。		良好	優れた点

中期目標（大項目）			判定	特記すべき点
中期目標（中項目）				
中期目標（小項目）				
計画番号	中期計画			
	研究環境の整備に関する基本方針 刻々と新たな展開がみられる先端科学技術分野において、世界的水準の成果を挙げ、研究活動が効果的に進められるよう、大学として各研究活動の状況を的確に把握し、その内容に応じて支援内容を決定するとともに、研究活動の効率化に取り組む上からも、学内設備の共同利用を進める。		おおむね良好	
	2-2-2-1【32】	研究環境の整備に関する具体的方策 教員研究費の配分については、職種別に基本額を一律に配分する一方、学長のリーダーシップによって、重要な学内プロジェクト等に対する重点配分を行う。このシステムの一層の効率的運用を行うため、プロジェクトの進捗等を毎年度報告させ、その結果により翌年度の配分先・額を決定する仕組みを構築する。	おおむね良好	
	2-2-2-2【33】	大型あるいは共通性の高い研究設備は、設備利用の効率化を行うため、主に学内共同教育研究施設（センター）において計画的に整備するとともに、全学的立場からの効率的利用及び他大学等との共同利用環境を整備する。	良好	優れた点
	研究の質の向上システムに関する基本方針 「世界的に最高水準の研究・教育拠点」の形成を実現するためには、研究の質を不断に向上させることが必要であるが、その判定には専門的な知見を必要とすることを踏まえ、学外有識者を積極的に活用するとともに、新たな研究シーズの開発・育成に取り組み、先端科学技術分野の研究を推進する。		おおむね良好	
○	2-2-3-1【34】	研究の質の向上システムに関する具体的方策 研究活動の評価を行い、学内各種プロジェクト研究の採否に際しての判断材料として活用するなどして、研究の質を向上する。 学外有識者から、教育研究に関する学術的見地からの助言を得るとともに、我が国が推進する科学技術政策に沿った研究推進の観点からも考察して、この助言を今後の研究活動の自律的改善に活用する。 また、特に、産業界等との連携を一層推進する仕組みを整えるとともに、世界や社会の課題解決も見据えた新領域開拓やイノベーション創出を可能とする教育研究環境を整備するため、産業界と連携した拠点を創設する。	良好	優れた点
	2-2-3-2【35】	高度の研究を活性化する観点から、学内研究活動を奨励・支援するための研究ユニット制度や研究活性化支援事業を推進し、エクセレント・コア形成につなげる。具体的には研究者の自発的な計画に基づく申請を基に、今後の発展性を重視した審査を行い、それらの中から国際的な水準に発展する可能性のある研究を選定し、重点的な支援を行う。	おおむね良好	

中期目標（大項目）		判定	特記すべき点
中期目標（中項目）			
中期目標（小項目）			
計画番号	中期計画		
(Ⅲ) その他の目標		おおむね良好	
① 社会との連携や社会貢献に関する目標		おおむね良好	
大学院大学にとっての地域、社会は事柄に応じて多層的であることに留意しつつ、それぞれの対象に相応しい連携関係を構築していく。地元市町村、石川県、北陸地域、全国、さらには世界、その全てが本学が対象とする地域であり、社会であるとの認識に立って、学内施設の機能強化に取り組みつつ、積極的に地域の発展に貢献していく。		おおむね良好	
3-1-1-1【36】	大学における各種活動状況をオープンキャンパス等の各種イベントを通して、中高生や地域住民、企業関係者等に幅広く情報発信し、社会貢献の機能を果たす。	おおむね良好	
3-1-1-2【37】	附属図書館は地域に開かれた図書館として、所蔵する貴重資料の展示会と解説等の実施、様々な観点でアレンジしたオリジナルの企画展示や郷土の美術家の作品展示を進め、また本学の研究成果を附属図書館ホームページから電子的に公開するなど、一般利用者の視点でのさらなる新しいサービスを充実する。	良好	優れた点
3-1-1-3【38】	先端科学技術研究調査センターの機能を強化し、研究成果の社会への還元だけでなく、大学が必要とする情報の獲得に努める。また、産学官連携コーディネーターの積極的な活用により、産業界との連携を促進する。	おおむね良好	特色ある点
3-1-1-4【39】	北陸地区国立大学連合や大学コンソーシアム石川など、近隣の高等教育機関との連携に参画し、本学の人的・物的資源を通じた地域貢献に取り組む。	おおむね良好	
② 国際化に関する目標		おおむね良好	
外国人留学生受入れの増や、教育研究成果の海外発信等、国際化の推進が求められる我が国の大学の中で、主導的役割を果たすべく、入国前から帰国後に至るまで一貫した取組を体系的に実施し、全国トップレベルの外国人留学生比率を達成するとともに、博士前期・後期課程を通じた英語のみによる課程修了や日本人学生の英語コミュニケーション能力の向上等を進める。		おおむね良好	
3-2-1-1【40】	国際化に関する目標を達成するための措置 海外トップクラスの大学・研究機関等との学術交流協定の締結を推進し、教員・学生の派遣・受入れ、共同研究等の連携・交流を進める。また、協定締結の実績・効果を定期的に検証し、必要に応じて内容の見直しや廃止を行う一方、優れた実績を有する大学・研究機関等には本学の現地共同研究・国際交流拠点の構築を進める。	良好	優れた点
3-2-1-2【41】	優秀な留学生の確保に配慮しつつ、既に20%を超えている留学生比率（平成21年4月現在20.4%）を中期目標期間中に30%程度にまで引き上げる。そのために、現地での入学許可制や博士前期・後期課程を通じた英語のみによる課程修了を実現するとともに、短期留学生も積極的に受け入れる。	良好	優れた点
3-2-1-3【42】	グローバルコミュニケーションセンターにおいて、外国人留学生に対する日本語能力向上及び日本文化理解、日本人学生に対する英語コミュニケーション能力向上について一体的に推進する。	良好	

中期目標（大項目）				判定	特記すべき点
中期目標（中項目）					
中期目標（小項目）					
計画番号	中期計画				
		3-2-1-4【43】	外国人留学生の増加に伴い生じる、様々な生活上の問題に一元的に対応する組織を整備する。また、「なんでも相談室」において外国人留学生による相談受付を実施するとともに、地元ボランティア団体等との連携を充実し、構外でも外国人留学生が安心して生活できる環境づくりを進める。	おおむね良好	
		3-2-1-5【44】	優れた研究成果に基づく特色ある国際セミナーやサマースクールを定期的で開催し、国際的な教育研究内容を広く海外に発信し、国際社会での本学の認知度を高める。	おおむね良好	
		3-2-1-6【45】	帰国留学生との継続的な連絡、海外における学生動向把握の拠点として本学の活動成果の国際的浸透を進めるため、帰国留学生の多い主要国を中心に帰国留学生同窓会を組織するとともに、それらのネットワーク化を実現する。	おおむね良好	

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

(1)	世界的に認知される水準の研究・教育拠点の確立や他大学にない特色・個性の伸長を目指した計画を進めている。将来、世界的に最高水準の研究・教育拠点（エクセレント・コア）となり得る先端研究拠点を段階的に形成するため、エクセレントコア形成構想を策定し、研究ユニット、第Ⅱ種研究施設（研究科教員が兼務して組織する分野融合的な仮想的な研究センター）、第Ⅰ種研究施設（専任教員及び専用スペースを有する研究センター）の順に、段階的に認定する仕組みを整備している。平成27年度にシングルナノイノベティブデバイス研究拠点、高性能天然由来マテリアル開発拠点をエクセレントコアに認定の上、支援を行っている。
(2)	知識科学の方法論を用いた日本型イノベーションデザイン教育の実施や産業界のニーズを踏まえた産業界との連携強化により、イノベーション創出人材を輩出する計画を進めている。人間力・創出力強化プログラムを開発しており、平成26年度に「イノベーションデザイン方法論」、平成27年度に「人間力・創出力イノベーション論」を開設し、全研究科を対象に授業を実施している。平成28年度に既存3研究科を1研究科に統合し、知識科学的方法論を全学に普及させるための制度設計を行っている。また、学外有識者の意見を取り入れる仕組みとして、大学等からアカデミックアドバイザーを、産業界からインダストリアルアドバイザーを招へいし、研究活動の改善に資する助言を得て、具体的な施策の実施につなげている。